

める人工肛門(ストーマ)の生活になり、自然な排便はできなくなる。

「えらいことになるのやなあ」、ここまできたら肝が据わったのか、私は「なるようになるわ」市大の先生にお任せするしかないと思いました。

手術後の痛みもまったくありませんでした。体力を付ける為長い廊下を何回も歩きました。1カ月少して退院しました。家に帰ると落ち込みが日に日に増えて「鬱」になりそうでした。

そんな時、大腸がんの講演会がぎんなんで開催されました。

始めて参加させていただきました。その時ぎんなんの事務局の木村さんから「ぎんなん」の会の入会用紙を頂きました。まだ術後3カ月なので心にゆとりはありません。「ちょっと考えます」と言って

用紙を持ち帰りました。しかし今考えてみるとその用紙を提出して良かった。

あの時木村さんが声を掛けて下さらなかつたら、私はあれで終わり。たった1枚の紙がぎんなんの皆様、さらにはボランティアグループ「はりねずみ・病院裁縫グループ」の皆様との出会いを作って下さいました。半分鬱になりかけていた私に救いの手を差し伸べてくださいました。

私は裁縫が好きです。患者会「ぎんなん」を通して「はりねずみ」という病院ボランティアの存在を知りました。今では「はりねずみ」は私の生き甲斐です。同じがんという病気を通じて、患者会の人達と共に共感し、「はりねずみ」では針をどうして笑顔がはじけます。皆様もどうぞ「はりねずみ」をお訪ねください。



頑張りました/刈谷久美子

平成6年11月、夫は肺がん(進行がん)で手術も出来ず54歳で他界しました。平成20年、今度は私が乳がん(左乳房)を大阪市大病院で告知されました。私は即手術を希望し、左乳房全摘術を担当医の高島先生から受けました。

リンパにも転移(3か所)がありましたので、術後化学療法を受けました。全身倦怠感、苦しい辛い点滴を終了して「ホット」したのも束の間、左腕が指先までパンパンに腫れ、触っても痛い。

浮腫!!じっと見つめて泣いた時もありました。担当医に紹介して頂き、リンパマッサージを開始しました。

9月より、乳腺内分泌療法(アロマシン25mg)が向こう5年間の予定で開始されました。更に担当医より骨リュウマチ科の今西先生、形成外科の元村先生を院内紹介して頂きました。

図書館で医学書を見たり、最新医療の本を購入したりして情報収集し、乳房再建を決意しました。

平成21年5月右乳房縮小術、腹直筋皮弁による左乳房再建手術を受けました。術後幸運にも左上の浮腫が改善されていました。とても嬉しかったです。左乳房「お帰りなさい」。温かくて柔らかく弾力有り。右乳房縮小「20歳?!」ルンルンですが、個人差があります。

ケロイド体質の私は、平成22年5月癒痕拘縮修正術、平成23年10月乳房下溝形成術、余剰組織切除術(局部麻酔)、平成24年6月乳輪・乳頭形成術で見事完成しました。良い縁に恵まれ感謝の日々でした。

平成22年の夏、乳腺外科の外来で辻代表との出会いにより、10月にぎんなんの会員となりました。高島先生他諸先生方の勉強会・おしゃべり会で勇気と希望を頂き、自身の乳がんを、必要に